

『古市』の地名考

古市地区に『古市』という町名は存在しない

現在の旭区内には、普通の地図の上では『古市』という町名は見当たらない。しかし、「古市小学校」、「古市連合振興町会」、「古市会館」などのような施設、組織、団体などの名称で『古市』の地名は広く使われている。これは地区の名称として用いられているのであって、この場合の『古市』は古市小学校の通学区域(校

区)を指している。

すなわち森小路、今市、千林の3町に限定した地域を指していると一般に理解されている。だが昔からこの3町だけの地域を『古市』と呼んでいたわけではない。もっと広い地域が『古市』であった。

『古市』小学校の名に見られる『古市』村の名残

ところで、古市小学校が『古市』の校名を名乗るのは大正11年(1922)12月10日、それまでの東成郡組合立千林尋常高等小学校(創立は明治6年(1873)7月)の校区が東西に分離し、新たに東に村立清水尋常高等小学校、西に村立『古市』尋常高等小学校が開校

してからである。両校の校名は、それぞれ村名の清水村および『古市』村に基づいている。

このように校名が村名からきているならば、この『古市』村の誕生によって『古市』という地名が地図の上に登場し、一般に知られるようになったとみてよい。

古代に『古市郷』と呼ばれたことから『古市』村と命名

『古市』村の誕生は明治22年(1889)4月1日、「市町村制」施行によって、従来の南島村、森小路村、今市村、千林村の4村が合併してできたものである。

そして旧村名はそれぞれ大字名として残された。4村合併といえば大規模化したように聞こえるが、当時(明治22年(1889))の人口は4村合わせても1,800人余り、戸数にして300軒足らずの純農村であった。

古市村役場は旧千林村野崎街道沿い(現在の千林交番の向かい側)に置かれ、村長以下7名の吏員で村政事務を執っていた。

ところで古市村発足に際して新しい村名を何とするか、様々な案が検討されたようであるが、結局、当村の初代助役に就任する森小路村出身の鳥山庄右衛門氏(後に明治28年(1895)4月第3代村長に就任)が、この地域が古代に『古市郷』と呼ばれていたことを知り、古代地名の『古市』を村名としたのである。

我が国最古の百科事典として知られる「和名類聚抄」に『古市郷』なる地名が見られる。この書物の正確な成立年は分からないが、平安時代中期、延長8年(930)

から承平5年(935)までに作られたものと推定され、醍醐天皇の娘、勤子内親王の命により側近の源順(みなもとのしたごう：歌人・学者)が編纂したものである(今日、写本が数種残っている)。

同書の「国郡部」の項に摂津国東生郡(ヒムガシナリと読む)には「古市」「郡家」「酒人」「味原」の4郷の地名が記されている。この『古市郷』が現在のどの地域にあたるかは正確には比定しがたい。

しかし平安時代の荘園の発達とともに『古市郷』が消えてゆき、代わって「榎並荘」の地名が登場してくる。そこで『古市郷』は、ほぼ後世の「榎並荘」と考えられる。とすれば現在の城東区(北半分)、旭区、都島区にわたる広い地域が含まれることになる。『古市村』は古代の『古市郷』という広域の一部に過ぎなかったのである。

しかし命名に当たって鳥山氏がはたしてこのような古典籍に通じていたかどうか、また助言があったのかなど、その経緯は分かっていない。

ともあれ古市村は、同時に誕生した城北村や清水村



写真■古市小学校

の命名が村の位置や神社に由来して簡明に命名されたことに比べ、難しい古代の地名に由来する深い由緒を持つことは確かである。言うなれば長い間埋もれてい

た古代の地名が明治中期になって当村で復活したのである。

大阪市編入時の地名変更で旭区から『古市』の名が消える

古市村は発足後、次第に発展を続け、大阪市編入直前の大正12年(1923)には人口6,100人余り、戸数1,540軒余りと都市化が進んでいた。それは当村が属していた東成郡の他町村も同様であった。

大正14年(1925)4月1日、東成郡は村民待望の大阪市に編入(第二次市域拡張)され、東成区と称するようになった。それによって古市村の区域は大阪市東成区の南島町、森小路町、今市町、千林町という新しい地名に変わった。

これは古市村発足以前の村名が町名に変わっただけであるが、村民は市民と呼ばれるようになったことで

住民には歓迎されるものであった。

しかし由緒深い『古市』の地名が以後、地図の上から消えることとなった。ただ古市小学校は改称されることなく従来の地名のままの校名で残った。

さらに昭和4年(1929)7月1日、南島町から大宮町が分離、新設され、関連して昭和7年(1932)11月26日に城北、古市両小学校から分離した大宮小学校が翌8年に開校されたことによって南島町は大宮小学校の校区に変わり、古市小学校の校区は4町から現行の3町の区域へと縮小したのである。

代わりに城東区に『古市』の町名が残る

先に『古市』の地名は現旭区が大阪市編入の大正14年(1925)に消えたと言ったが、それは現旭区の範囲内のことであって、その後も地図上には残っていた。現城東区の『古市』、現在の古市1～3丁目辺りがそれである。

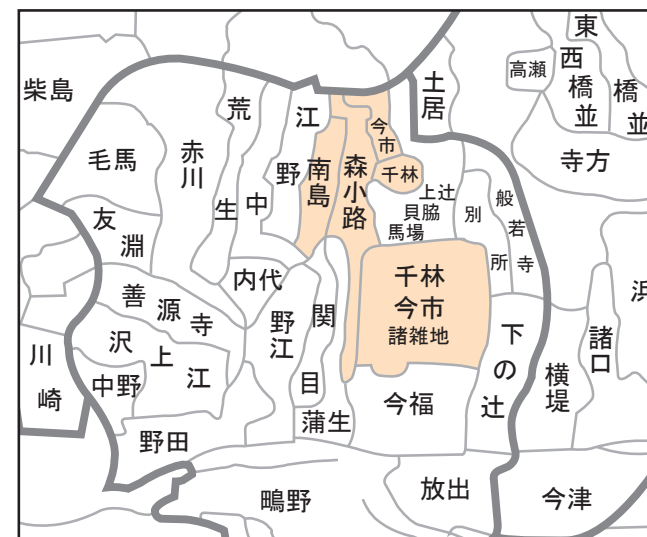
古市村時代、この地域もまた古市村に含まれていた。古市村発足以前この地域は田畑ばかりで、今市、千林の2村が複雑に入り乱れて存在し(錯雑地という)、さらにややこしいことに清水村の一部まで飛び地として入り込み、村の境界は複雑で明確ではなかった。

しかし、大阪市編入後、都市計画による道路整備がいち早く進み、地名も道路と関係したものになった。

そして地名も古市大通り、古市北通り、古市中通り、古市南通りと名付けられ、整然とした区画整理が進められた。

この地域は昭和18年(1943)4月1日、当時の旭区の南半分が分区して城東区ができたことによって、現在の国道163号以南が旭区から切り離された。その後、城東区は区内の区画を整理し直し、この地域を古市1～3丁目と改称したが、『古市』の地名は残されたまま、今日に至っている。

『古市』の地名は今もなお、このような所に名残を留めているのである。



地図①■古市村成立以前

江戸期～明治22年(1889)



地図②■古市村成立以後

明治22年(1889)～大正14年(1925)